

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870700317		
法人名	有限会社かなくぼ薬局		
事業所名	グループホーム ハーモニー城ノ内		
所在地	茨城県結城市結城8670-2		
自己評価作成日	平成28年11月4日	評価結果市町村受理日	平成29年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0870700317-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成28年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地、畑、水田、工場地帯、などが見渡せる高台にあり、スーパーやホームセンター、外食チェーン店まで車で5～6分と便利な立地。建物は空間が広く天井も高く中庭もあり広々とした住環境、木造平屋で屋外への出入りも段差が無く平易である。デイサービスを併設しているため、新年会、納涼祭、歌謡ショー、などは合同で、とても大勢でにぎやかに楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅・農村地域・工場地帯の中にあり、デイサービスとグループホームが併設されている。一年を通したイベント(新年会・納涼祭・歌謡ショー・運動会・敬老会・クリスマス会等)は合同で盛大に開催し、回覧板で地域に情報を発信し、利用者・地域住民と一緒に楽しんでいる。リビングから眺める中庭には四季の草花が咲き、季節の移ろいを感じることが出来る。施設長・管理者・職員ともに利用者本位を念頭においたケアの提供に努めており、朝の挨拶の時に一人一人の顔を見ながら状態を把握したり、その日の気分に合わせた対応を心掛けている。デイの看護師からアドバイスを受けたり、勉強会を実施しスキルアップに取り組んでいる。事業所独自の家族会として毎月1000円を集め、家族の中から会長・副会長・会計を選出し、敬老会・クリスマス会・誕生会のプレゼントや運営推進会議の交通費として支給している。総会の後は全利用者・家族・職員と一緒に食事会に出掛け、家族と利用者の思い出作りの機会としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と職員が同じ理念を共有し実践している。	玄関・各ユニットの視線の入るところに掲示し、意識付けを行っている(障害のあるという文面はなくした)。管理者・施設長から会議等で話があり、理念に添ったケアの提供に努めている。職員は利用者の気持ちを第一にし、状態の把握とコミュニケーションを大切にしながら、ケアに取り組んでいるとの話があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが自治会行事に参加する機会はない。生き生き体操の講師は地元ボランティア、施設行事案内を町内老人会に回覧、来所され交流の機会がある。	自治会に加入して事業所イベント(納涼祭)の案内を回覧で知らせ、多数の参加があり、利用者と一緒に楽しんでいる。ボランティア訪問はフラダンス・いきいき体操・絵手紙・和太鼓・書道・民謡・吹奏楽等頻繁にあり、利用者参加型で楽しんでいる。今後は自治会のイベントへ利用者が参加することも考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席される町内会会長や家族の方々に日々のケアの話題をとおして、また納涼祭などの時に実際の介護場面を自然に地域の方々に見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議において日常の報告、写真、などをもとに意見をいただきよりよい運営に活かしている。	2ヶ月ごとに利用者家族(3名)・民生委員・自治会長(2名)・行政・事業所担当で開催し、事業予定・報告・利用状況等を報告し、そこでの意見やアンケート(看取り→同意書に関する理解を得た。駐車場の土砂→地主・行政に要請)をサービス向上に活かしている。役員以外の家族には議事録を写真と同封し送付している。職員には会議等で報告し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席いただきご意見やご指導いただいている。	運営推進会議に出席以外には、相談があれば管理者が行政に向きアドバイスを受けている。地域密着型連絡協議会に出席し情報交換を行っている。保育園にクリスマスプレゼントを持って行ったり、園児が来てくれて遊戯を披露してくれ交流があり、その時は一段と利用者の表情が明るくなる。中学生の体験学習の場として提供。子供110番の家は検討中。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し話し合いをしているが、やむを得ず施錠設備を2か所施した。	身体拘束廃止委員会が主となり拘束となる事例につき検討を行っている。利用者の安全上やむを得ず拘束となる場合は家族に説明しているが同意書はもっていない。	きちんと身体拘束廃止に関する指針と期間や取り組みを記入できる同意書が作成されているので、拘束解消に向けた取り組みを統一するためにも、同意書を取り交わすことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な介護、高齢者虐待について研修を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修をしていく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前訪問を行いじゅうぶんな理解をしていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度の家族会総会にそれぞれの家族より意見や要望、アンケートなどいただき参考にしている。	家族総会・運営推進会議・面会時等に意見を聞いている(面会簿の記入欄が無くなっていたが、補充されていない→すぐに改善)。ひまわり会は家族で運営され(毎月1000円集金)敬老会・クリスマス会・誕生会のプレゼントや運営推進会議の交通費に使われている。職員配置や行事予定の便り、毎月の請求書を担当職員が利用者の状況を書いたものと一緒に郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週行うリーダー会議、月1回のセクション会議があり互いに意見を聞き運営に反映させている。	リーダー会議・セクション会議で意見を聞く機会を設け、反映させている(誤嚥・たんばくパウダー・食事前の運動等を提案→対応)。前回の評価を受け外部研修伝達報告・内部研修後の確認テストを実施し職員のスキルアップに取り組んでいる。職員がやりがいをもって働けるような職場環境の提供に努めている。リーダーから施設長・会長に伝達されているが、現場の悩み等は現場で解消したいので、直接会長に伝えるときもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心、やりがいを持って働けるような職場環境の実現がまだ届いていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受け、伝達研修を行ったり、施設内研修の時に1分テストを行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	結城市地域密着型施設連絡協議会の会議に出席し意見交換。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の居る場所に伺い、本人に面会、本人の思いを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に利用申し込みの時や見学に来所された時に良く聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅のケアマネージャーからの情報をいただき対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識を持たず互いに協働しながら和やかな生活ができるよう場面づくりや言葉かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	周年祭、納涼祭、運動会、など御家族を招き共にひと時を過ごして頂き共に本人を支える関係作りにつなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や知人の方が面会に来られたら、ゆっくりと面談出来るよう配慮する、絵手紙を描いて送る、等支援している。	家族や友人の面会があったり、希望に応じて電話で連絡を取り合ったり、絵手紙・年賀状等を家族・知人に送り、今まで大切にしてきた馴染みの人との関係継続に努めている。家族の協力を得てお墓参り・外出・外出に出かける利用者がいる。利用者宛にお中元・お歳暮が届いている。食べ物の要望が出た場合は提供するようになっている。しもつかれの要望が出たときは、家族が全利用者分を作ってきてくれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お食事の時の座席を配慮したり役割活動を職員も共に行い互いの関わり合いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去された方、食思低下の相談に応じたり、自宅に戻られた方、通所介護のサービスにつなげたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から一人ひとりの希望に合わせて困難な場合は職員間で検討したりご家族と担当者会議を開催して暮らし方の希望を把握している。	利用者とは良い関係が出来ているので、希望や意向は把握でき、全職員で共有して統一したケアを行っている。一日の流れは利用者に合わせて、書道・カラオケ・絵手紙・散歩・体操・パズル・計算・縫物・読書等の趣味や洗濯干しや洗濯たたみ・食器拭き等、得意分野からやりがいに近づけている。困難な場合は表情・様子や家族を交えて話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅CMからの情報や入院していた病院のサマリー、ご家族からの情報、を職員間で共有しこれまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の水分摂取表や申し送りからまた毎月のセクション会議の時に個別に気付いた事等を報告し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	セクション会議においてモニタリング表を作成し皆で話し合いよりよい介護を目指し担当者会議の意見も取り入れ作成している。	担当者会議で利用者・家族から要望を聞き職員の気づきや利用者の様子から、課題とケアのあり方について話し合っケアマネがプランを作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。丁寧なモニタリングが実施され、評価につなげられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を経過記録に記入し申し送りノート等で共有している。本人の言葉や思いをその後のプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	結城市ふれあい祭り等外出支援をしている。天気の良い日には外に出たり買い物ツアー等を行い柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の先生による生き生き体操、カラオケ教室、フラダンス歌謡ショー、中学校の生徒保育園児とのふれあい祭りでの交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医で受診。家族が行けない時は職員が通院介助する。協力医は月1回往診に来られ細やかな指導助言があり信頼している。	今まで通りのかかりつけ医受診は、基本的に家族付き添いであるが、場合により職員が付き添っている。月1回の協力医の往診と毎日看護師のチェックにより体調管理に努めている。緊急時は個人受診ノートを持参している。突発時は家族に連絡しケース記録に赤ペンで記入し全職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師により一人ひとりの状況の確認バイタルサインのチェックや服薬の確認、患部の処置、急変時におけるの指示や指導もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はかかりつけ医の指示に従いご家族と受け入れ病院と連携がとれる。病院MSWとの関係を大切にしており早めの退院につながっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看とりの指針を入居契約時に必ず説明しており、同意をいただいている方もいる。	契約時に指針を説明しているが、同意書の取り交わしは数名である。家族会で同意書の必要性を説明し理解を得たので、その方向で進めている。重篤時に医師・家族・職員と再度確認を行い、同意書を取り交わし、利用者にとってベストの旅立ちが出来るよう、他の利用者や家族の精神的ケアに配慮しながら、看取り支援を実施している。家族が泊まることもある。一生懸命支援している職員に対して、家族からお礼の言葉を頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況によりまたヒヤリハットの報告を受けて看護師により指導して頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回結城消防署員立会の下避難訓練を行っている。大規模災害時の対応マニュアルを見直した。	消防署指導・自主訓練を年2回実施している。大規模災害発時の対応マニュアルを見直した。避難場所は特別支援学校で避難訓練を実施した。備蓄品は整備している。交通事故対応マニュアル・緊急持ち出し用品は準備中。地域住民に依頼要請の第1歩として、地主・自治会長の承諾を頂ければ、連絡網の中に記載したい。	具体的に緊急持ち出し用品はどのようなものなのか、交通事故対応マニュアルには現場の写真を撮る・現場の住所確認方法等を全職員で話し合っ明記し、車中に整備することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄や入浴時の言葉かけに気をつけて職員間で気付いたことはセクション会議で話し合う機会を設けている。	利用者を否定することなく、認めることの大切さが第一だと感じている。書類関係の保管場所・情報開示に関する同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。面会簿は個人ごとに記録している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	書道教室、カラオケ教室、絵手紙教室等への参加促し、買い物、外食などで自己決定の働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操、読書やテレビ、折り紙や音楽ぬり絵、縫物パズル計算問題など希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	納涼祭にはお化粧をしたり、自分で染め抜きをしたTシャツを着たり、外出時は帽子やスカーフを選んで楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	トウモロコシの皮をむいたりいんげんの筋をとったり、干し柿をつるしたり、蜜柑の皮むき、ホットケーキやたこ焼き等をつくりいっしょに楽しんでいる。	厨房で調理師(利用者が完食する事を願いながら)が調理したメニューを職員がエプロン・帽子着用で盛り付けたものを提供している。利用者はトウモロコシ・蕎麦の皮むきや筋とりなどの下準備や下膳等、出来る範囲で行っている。休憩時間の関係で職員は一緒に食べていないが、会長・担当職員が介助を行いながら嚥下等を見守っている。干し柿作り・芋がら干し・おやつ作りは(たこ焼き・ホットケーキ等)利用者の楽しみとなっている。利用者の状態に応じた食事形態(ミキサー食)や体調に応じ塩分控えめの薄味で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取について把握できるよう記録している。不足変化が見られた時は看護師と連携し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に口腔ケア体操、食後に口腔ケアの支援をしている。義歯の洗浄も確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄向上委員会を定期的に開催、尿意便意のサインを把握してトイレに誘導、介助を行っている。おむつの使用を減らす働きかけをしている。	排泄向上委員会を開催し、利用者夫々のサインを全職員で確認してトイレに誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を実施している。おむつ・リハパン・パットの使用枚数を減らす支援に努め、布パンツに改善した利用者がある。お米に麦を混ぜる・体操・下肢筋力強化・歩行訓練・水分・乳酸飲料等からなるべく内服に頼らず、自然排便に努めている。オムツやリハパン交換時の手順を統一した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行訓練、水分補給、に努め、排泄表を活用し看護師と連携し下剤の内服を個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全を第一に職員の都合で時間帯を決めてしまうこともある。拒否が見受けられる方には安心できる声掛けなど工夫して個々にそった支援をしている。	週3～4回の入浴支援を実施しているが、希望により毎日入浴している利用者もいる。業務を優先し時間帯を決めてしまう時もあり、利用者本位に取り組みたいとの事。2人体制で浴槽につかってもらったり、季節のゆず湯・しょうぶ湯を提供し利用者に喜ばれている。感染予防対策として足ふきマットの上に個人タオルを敷いている。着替えは状況に応じ職員が利用者に聞いたり、自分で用意している。まき爪は看護師・往診医に切ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたい時には自由にしている。照明やドア閉めが気になる、なかなか眠れない、など不安な方には個別に安心して休めるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれ薬剤情報、お薬手帳をいつでも確認できるようにファイリングしてある。服薬について業務日誌に担当者が記入して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたため、食器拭き、テーブル拭き、戸締りなどの家事や歌、絵、縫物、読書、パズル、頭の体操などを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い時には外気浴に敷地内散歩に出る。初詣や桜の花見、外食や買い物など外出の機会を支援している。	季節ごとのイベント外出(初詣・花見等)・ふれあい祭り・買い物ツアー・外食や天気や体調が良ければ、近場を散策したり前庭で体操や日光浴を行い、五感の刺激を受けている。納涼祭の後は全利用者と家族と一緒に食事に出かけ、楽しい時間を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段お金の所持はしていない。お賽銭やお買い物の時にめいめいにお金を使用する機会がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いのはがきや年賀状、など絵手紙をかいて家族に出したり、電話を取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の手入れ、供用の空間の清潔を保ち季節を感じられるよう工夫し居心地良く過ごせるよう努めている。	四季折々の草花が咲き誇る中庭は利用者の心の安らぎとなっている。玄関先のプランターに植えられたお花が訪問者や外出から帰宅した利用者を温かく迎え入れてくれる。丹念に手入れした蘭が廊下に並べてあったり、利用者の自慢(今年の干支のサルやフクロウの見事な貼りえ)の手作り作品が飾っており、やりがいへとつなげる配慮があった。リビングには温かい日差しと床暖房でうとうとする利用者の姿があった。畳コーナーや廊下のソファ、椅子に座り、家族と語らう場面があるという。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみのスペースや廊下のソファやテーブル、等を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の写真を置いたり作品を置いたり自宅から馴染みの物を持ってきていただいている。	利用者はもちろん家族が面会に来た時に居室で語らいの場が持てるように椅子やテーブルを配置している居室があった。なじみのベット・寝具・テレビ等を安全面に配慮し設置している。毎日書き続けている日記・家族の写真・趣味の書道や手作り作品を飾り、利用者がほっとする居室となっている。掃除は主に職員が行い清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし手すりを付け目印などを付けたりしている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム ハーモニー城ノ内

目標達成計画

作成日: 平成 29 年 4 月 16 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束廃止に関する指針と利用者の安全上やむを得ず拘束となる場合に説明のみで、他人任せにしている同意書を取り交わしていなかった。	ご利用者の安全上やむをえず拘束となる場合は、期間や取り組みについて身体拘束廃止委員会で話し合い、ご家族へもじゅうぶんな説明をし、同意書を取り交わすこと。	職員全員が身体拘束廃止に関する指針をじゅうぶんに理解し、身体拘束廃止に向けた取り組みができるように、同意書への記入についてもできるようになるようセクション会議において 学習していく。	3 ヶ月
2	35	大規模災害時、緊急事態発生時に持ち出す物品リスト、入居者カードの作成ができていない。誰かがするのだろうと思っていた。	災害発生時対応マニュアルに具体的に緊急持ち出し用品を明記し、また入居者カードを作成し、全職員が対応できるようにする。	毎週土曜日のリーダー会議において検討し、緊急時に対応できるマニュアル作りを進めて行く。また、入居者カードの作成を行う。	6 ヶ月
3	45 49	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援がじゅうぶんにできていない。	お一人お一人の希望やタイミングに合わせて、清潔を保ち入浴を楽しめるよう、また外出も楽しめるような支援を日々提供していく。	・安心安全な入浴の機会を週3回確保できる業務分担、業務体制を整える。 ・季節に合わせて、外出の機会を定期的に計画し、協力して実行していく。 ・一人ひとりの自立を支援することの大切さを考えて業務を行えるような職員の育成に取り組む。	6 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。